

FUJITSU Server PRIMERGY BX920 S4 マニュアル訂正事項

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本製品に添付されておりますマニュアル類の内容に訂正事項がございましたので、ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、マニュアルをご覧になる場合に下記に示します内容を合わせてお読みくださるようお願いいたします。

2015 年 5 月
富士通株式会社

1. 『PRIMERGY BX920 S4 サーバブレード オペレーティングマニュアル 2013 年 11 月版』への訂正事項

訂正 「6.1 各部名称」(関連ページ: 48)

電源表示ランプの説明について、以下の記述に読み替えてください。



電源表示ランプ (3 色)

電源が供給されていない場合は消灯します。

サーバの電源を切るとオレンジ色に点灯します。ただし、電源は供給されています。

パワーオンデレイの場合は黄色に点灯します。



シャットダウン直後に、再びサーバの電源を入れることはできません。サーバのシャットダウン直後に電源ボタンを押すと、デレイ期間が終了するまで電源表示ランプが黄色に点灯し、その後サーバは起動します。

サーバに供給される電源が不足している場合はサーバの電源を入れることはできません。この状態で電源ボタンを押すと電源表示ランプは黄色に点灯します。

サーバの電源を入れると緑色に点灯します。

サーバの電源が投入されていてスタンバイモードの場合は緑色に点滅します。

iRMC 起動中の場合は黄色 / オレンジ色に交互点灯します。



サーバに電源が供給されると iRMC が起動します。

iRMC ブートシーケンスが完了するまで、システムの電源を入れることはできません。この間、電源表示ランプは黄色とオレンジ色を交互に点灯します。

このステータスは iRMC のファームウェア版数が 7.3xF 以降のときに表示されます。

2. 『PRIMERGY BX920 S4 サーバブレード アップグレード&メンテナンスマニュアル 2014 年 2 月版』への訂正事項

訂正 「8.4.5 終了手順」(関連ページ : 179)

メモリモジュール交換の終了手順について、以下の手順に読み替えてください。

8.4.5 終了手順

作業を完了するには、次の手順に従います。

- ▶ 180 ページの「エアカバーの取り付け」の項に記載されているように、エアカバーを再び取り付けます。
- ▶ メザニンカード取り付けプレートを取り外した場合は、128 ページの「メザニンカードの取り付け」の項に記載されているように、メザニン取り付けプレートを再び取り付けます。
- ▶ 55 ページの「サーバブレードを閉じる」の項に記載されているように、サーバブレードを閉じます。
- ▶ 56 ページの「システムユニットへのサーバブレードの設置」の項に記載されているように、システムユニットにサーバブレードを再び取り付けて、固定します。
- ▶ ラックドアが付いている場合は、60 ページの「ラックドアを閉める」の項に記載されているように、ラックドアを閉じます。
- ▶ 可能な場合は、72 ページの「システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ」の項に記載されているように、システムボード BIOS を最新バージョンにアップデートします（日本市場には適用されません）。
- ▶ 83 ページの「Boot Watchdog 機能の有効化」の項に記載されているように、Boot Watchdog 機能を有効にします。
- ▶ 84 ページの「交換した部品のシステム BIOS での有効化」の項に記載されているように、交換したメモリモジュールを有効化します。
- ▶ メモリモジュールのエラーステータスをリセットします。



故障したモジュールを交換した後、エラーカウンターが自動的にリセットされているか確認してください。メモリスロットが故障しているようにまだ示される場合は、以下のいずれかを使用してエラーカウンターを手動でリセットしてください。

iRMC Web フロントエンドの使用

- ServerView iRMC Web フロントエンドに移動します。
- 「System Information」メニューを選択します。
- 「System Components」で、影響を受けるメモリモジュールの横にあるチェックボックスを選択します。
- ドロップダウンリストから「Reset Error Counter」を選択します。
- 「適用」をクリックして変更内容を適用します。

ServerView Maintenance Tools の使用 (Windows のみ)

- ServerView Maintenance Tool の起動

Windows Server 2008 R2 以前

「スタート」→「(すべての) プログラム」→「Fujitsu」→「ServerViewSuite」→「Agents」→「Maintenance Tools」

Windows Server 2012 以降

「スタート」→「アプリ」→「Fujitsu」→「Maintenance Tools」

- メモリステータスタブを選択します。
- 故障発生予測ステータスが表示されるメモリモジュールを選択します。
- 「Reset Status」をクリックします。



「Reset Status」ボタンは、選択したメモリモジュールにエラーがある場合のみ使用できます。

- すべての故障発生予測／故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

コマンドラインの使用 (Linux のみ)

ServerView Agents for Linux に含まれる `meclear` ユーティリティを使用して、メモリカウンターをリセットできます。



`meclear` (Memory Module Error Counter Reset Utility) を使用して、メモリモジュールの交換後などに、メモリモジュールについて収集されたエラーカウンターをリセットできます。

詳細については、`meclear` マニュアルページを参照してください。

- ルートとしてログインします。
- 次のコマンドを入力して [ENTER] を押します。
`/usr/sbin/meclear`
- ステータスが「OK」または「Not available」以外のメモリモジュールの番号を選択します。
- すべてのメモリモジュールに「OK」ステータスが表示されるようになるまで上記手順を繰り返します。
- すべての故障発生予測／故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

- ▶ 85 ページの「メモリモードの確認」の項に記載されているように、メモリモジュールが元の状態に戻っていることを確認します。

訂正

「9.4.4 終了手順」(関連ページ : 200)

プロセッサ交換の終了手順について、以下の手順に読み替えてください。

9.4.4 終了手順

作業を完了するには、次の手順に従います。

- ▶ 203 ページの「プロセッサヒートシンクの取り付け」の項に記載されているように、プロセッサヒートシンクをプロセッサに取り付けます。
- ▶ メモリモジュールが取り外されている場合、171 ページ の「メモリモジュールを取り付ける」の項に記載されているように、メモリを元の位置に取り付けます。
- ▶ 55 ページの「サーバブレードを閉じる」の項に記載されているように、サーバブレードを閉じます。
- ▶ 56 ページの「システムユニットへのサーバブレードの設置」の項に記載されているように、システムユニットにサーバブレードを再び取り付け、固定します。
- ▶ ラックドアが付いている場合は、60 ページの「ラックドアを閉める」の項に記載されているように、ラックドアを閉じます。



サーバの電源投入後に、「CPU has been changed」のエラーメッセージが発生し保守ランプが点滅することがあります。このメッセージは、搭載 CPU の構成が変更されたことを示すもので機能的な問題ではありません。

保守ランプの点滅は、BIOS セットアップユーティリティで「*Save change and Exit*」または「*Save change and Reset*」を選択することによって消えます。

- ▶ 可能な場合は、72 ページの「システムボード BIOS と iRMC のアップデートまたはリカバリ」の項に記載されているように、システムボード BIOS および iRMC を最新バージョンにアップデートします。
- ▶ 84 ページの「交換した部品のシステム BIOS での有効化」の項に記載されているように、交換したプロセッサを有効にします。
- ▶ プロセッサのエラーステータスをリセットします。



故障した CPU の交換後に、以下のいずれかの方法を使用してエラーカウンターを手動でリセットしてください。

ServerView Maintenance Tools の使用 (Windows のみ)

- ServerView Maintenance Tool の起動

Windows Server 2008 R2 以前

「スタート」→「(すべての) プログラム」→「Fujitsu」→「ServerViewSuite」→「Agents」→「Maintenance Tools」

Windows Server 2012 以降

「スタート」→「アプリ」→「Fujitsu」→「Maintenance Tools」

- CPU ステータスタブを選択します。
- 故障発生予測ステータスが表示される CPU を選択します。
- 「Reset Status」をクリックします。
- すべての故障発生予測／故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。

コマンドラインの使用 (Linux のみ)

次の手順の従って、特定のプロセッサのエラーカウンタをリセットします。

- ルートとしてログインします。
- 次のコマンドを入力して [ENTER] を押します。
`/usr/sbin/eeecdcp -c oc=0609 oi=<CPU#> cab=<cabinet nr>`

キャビネット番号を識別できるように、次のコマンドを入力して[ENTER] を押します：

```
/usr/sbin/eeecdcp -c oc=E204
```



<CPU#>の入力値は、CPU1 の場合は「0」、CPU2 の場合は「1」です。

- 上記の方法でエラーステータスをリセットできない場合は、以下の手順ですべてのプロセッサのエラーカウンタをリセットしてください。
 - ・ ルートとしてログインします。
 - ・ 次のコマンドを入力して [ENTER] を押します。
 1. `/etc/init.d/srvmagt stop`
`/etc/init.d/srvmagt_scs stop`
`/etc/init.d/eeecd stop`
`/etc/init.d/eeecd_mods_src stop`
 2. `cd /etc/srvmagt`
 3. `rm -f cehist.bin`
 4. `/etc/init.d/eeecd_mods_src start`
`/etc/init.d/eeecd start`
`/etc/init.d/srvmagt start`
`/etc/init.d/srvmagt_scs start`
 - ・ すべての故障発生予測／故障ステータスの問題が解決されていることを ServerView Operations Manager で確認します。
- ▶ 83 ページの「Boot Watchdog 機能の有効化」の項に記載されているように、Boot Watchdog 機能を有効にします。
- ▶ BitLocker 機能を使用していて、保守作業を開始する前に無効にした場合は、91 ページの「BitLocker 機能の有効化」の項に記載されているように、BitLocker を再度有効にします。

追加 「10 システムボードのコンポーネント」(関連ページ : 211)

以下の記述が追加になります。

10.6 microSD カード



iRMC の embedded Lifecycle Management (eLCM) 機能を使用するには、microSD カードが必要です。microSD カードと共に必ず購入され、iRMC Web フロントエンドでアクティブ化された有効な eLCM ライセンスキーが必要です。

詳細は、『ServerView embedded Lifecycle Management (eLCM) 』ユーザガイドを参照してください。

10.6.1 microSD カードの取り付け



**ユニットのアップグレードおよび
修理 (URU)**



**平均作業時間 :
5 分**

工具 : 工具不要

10.6.1.1 準備手順

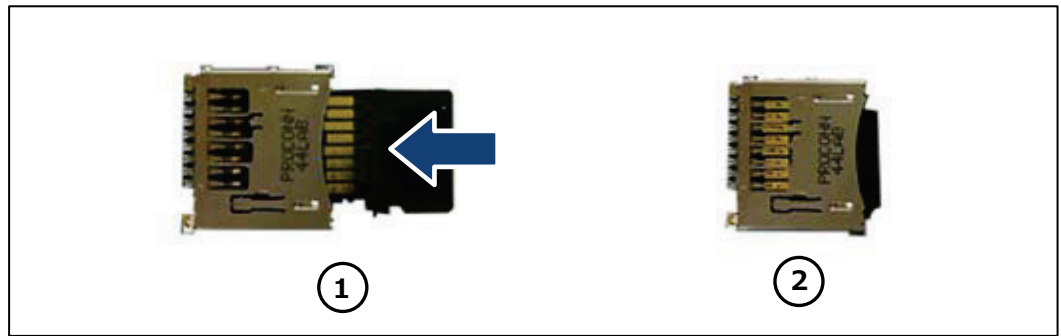
microSD カードを取り付ける前に、次の手順に従います。

- ▶ ラックドアが付いている場合は、50 ページの「ラックドアを開ける」の項に記載されているように、ラックドアを開きます。
- ▶ 43 ページの「故障したサーバブレードの特定」の項に記載されているように、目的のサーバブレードを特定します。
- ▶ 51 ページの「サーバブレードのシャットダウン」の項に記載されているように、サーバブレードをシャットダウンします。
- ▶ 53 ページの「サーバブレードのシステムユニットからの取り外し」の項に記載されているように、システムユニットからサーバブレードを取り外します。
- ▶ 54 ページの「サーバブレードを開ける」の項に記載されているように、サーバブレードを開きます。
- ▶ 135 ページの「メザニンカード取り付けプレートを取り外し」の項に記載されているように、メザニンカード取り付けプレートを取り外します。

10.6.1.2 microSD カードの取り付け



図 : microSD カード



図：microSD カードの取り付け

- ▶ microSD カードの端子面を上に向けて (1)、microSD カードを最後まで microSD カードのスロット (2) に挿入します。



microSD カードのスロットのオンボード位置は、260 ページの「サーバブレードの内部」の項に記載されています。

10.6.1.3 終了手順

作業を完了するには、次の手順に従います。

- ▶ 132 ページの「メザニカード取り付けプレートの取り付け」の項に記載されているように、メザニカード取り付けプレートを取り付けます。
- ▶ 55 ページの「サーバブレードを閉じる」の項に記載されているように、サーバブレードを閉じます。
- ▶ 56 ページの「システムユニットへのサーバブレードの設置」の項に記載されているように、システムユニットにサーバを再び取り付けて、固定します。
- ▶ ラックドアが付いている場合は、60 ページの「ラックドアを閉める」の項に記載されているように、ラックドアを閉じます。

10.6.2 microSD カードの取り外し



**ユニットのアップグレードおよび
修理 (URU)**



**平均作業時間：
5 分**

工具：工具不要

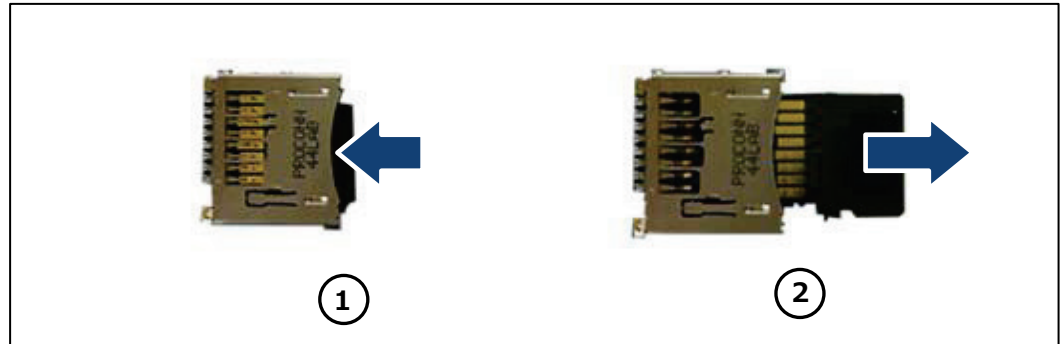
10.6.2.1 準備手順

microSD カードを取り外す前に、次の手順に従います。

- ▶ ラックドアが付いている場合は、50 ページの「ラックドアを開ける」の項に記載されているように、ラックドアを開きます。
- ▶ 43 ページの「故障したサーバブレードの特定」の項に記載されているように、目的のサーバブレードを特定します。
- ▶ 51 ページの「サーバブレードのシャットダウン」の項に記載されているように、サーバブレードをシャットダウンします。
- ▶ 53 ページの「サーバブレードのシステムユニットからの取り外し」の項に記載されているように、システムユニットからサーバブレードを取り外します。

- ▶ 54 ページの「サーバブレードを開ける」の項に記載されているように、サーバブレードを開きます。
- ▶ 135 ページの「メザニンカード取り付けプレートの取り外し」の項に記載されているように、メザニンカード取り付けプレートを取り外します。

10.6.2.2 microSD カードの取り付け



図：microSD カードの取り外し

- ▶ microSD カードを取り出すために、ゆっくり押し込んで、離します (1)。
- ▶ microSD カードをまっすぐスロットから引き出します (2)。

10.6.2.3 終了手順

作業を完了するには、次の手順に従います。

- ▶ 132 ページの「メザニンカード取り付けプレートの取り付け」の項に記載されているように、メザニンカード取り付けプレートを取り付けます。
- ▶ 55 ページの「サーバブレードを閉じる」の項に記載されているように、サーバブレードを閉じます。
- ▶ 56 ページの「システムユニットへのサーバブレードの設置」の項に記載されているように、システムユニットにサーバを再び取り付けて、固定します。
- ▶ ラックドアが付いている場合は、60 ページの「ラックドアを閉める」の項に記載されているように、ラックドアを閉じます。

10.6.3 microSD カードの交換



**ユニットのアップグレードおよび
修理 (URU)**



**平均作業時間：
5 分**

工具：工具不要

10.6.3.1 準備手順

microSD カードを交換する前に、次の手順に従います。

- ▶ ラックドアが付いている場合は、50 ページの「ラックドアを開ける」の項に記載されているように、ラックドアを開きます。
- ▶ 43 ページの「故障したサーバブレードの特定」の項に記載されているように、目的のサーバブレードを特定します。

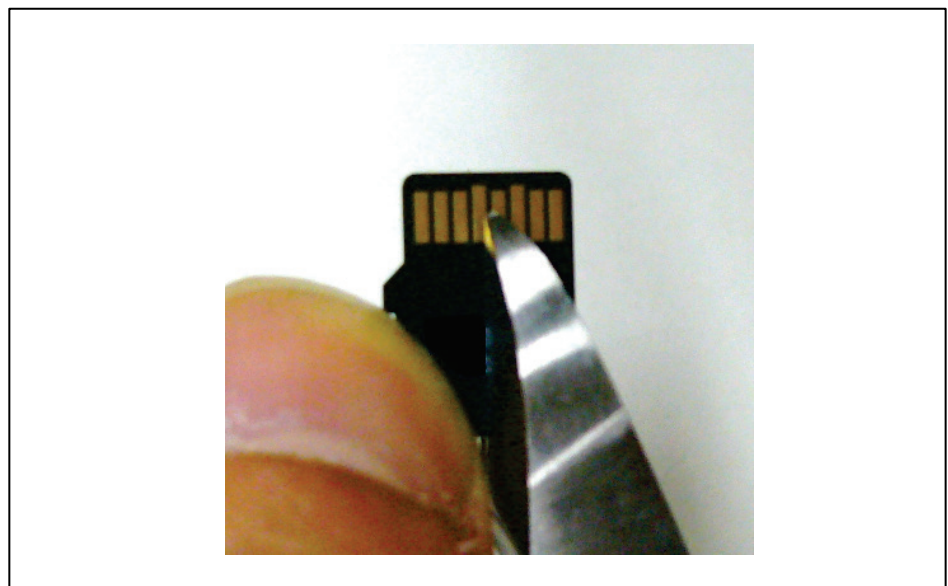
- ▶ 51 ページの「サーバブレードのシャットダウン」の項に記載されているように、サーバブレードをシャットダウンします。
- ▶ 53 ページの「サーバブレードのシステムユニットからの取り外し」の項に記載されているように、システムユニットからサーバブレードを取り外します。
- ▶ 54 ページの「サーバブレードを開ける」の項に記載されているように、サーバブレードを開きます。
- ▶ 135 ページの「メザンカード取り付けプレートの取り外し」の項に記載されているように、メザンカード取り付けプレートを取り外します。

10.6.3.2 microSD カードの交換

- ▶ 本書の「microSD カードの取り外し」の項に記載されているように、故障している microSD カードを取り外します。
- ▶ 本書の「microSD カードの取り付け」の項に記載されているように、新しい microSD カードを取り付けます。

故障した UFM の破壊

- i** microSD カードには、ユーザー情報（IP アドレスなど）が含まれています。microSD カードを交換後、故障した microSD カードをお客様に返却してください。故障した microSD カードの廃棄をお客様に依頼された場合は、次の手順に従い破壊を行ってください。また、破壊した microSD カードは廃棄をしてください。



図：microSD カードの破壊

- ▶ 上図のように、ニッパを使用して、microSD カードを 2 つに切断します。

10.6.3.3 終了手順

作業を完了するには、次の手順に従います。

- ▶ 132 ページの「メザンカード取り付けプレートの取り付け」の項に記載されているように、メザンカード取り付けプレートを取り付けます。
- ▶ 55 ページの「サーバブレードを閉じる」の項に記載されているように、サーバブレードを閉じます。

- ▶ 56 ページの「システムユニットへのサーバブレードの設置」の項に記載されているように、システムユニットにサーバを再び取り付けて、固定します。
- ▶ ラックドアが付いている場合は、60 ページの「ラックドアを閉める」の項に記載されているように、ラックドアを閉じます。

訂正 「10.5.3 システムボードの取り外し」(関連ページ : 248)

下線部が訂正箇所です。

誤:

- ▶ 関連する項に示すように、以下のコンポーネントをシステムボードから取り外します。
 - ヒートシンク: 207 ページの「プロセッサヒートシンクの取り外し」の項を参照

 この時点では、プロセッサを故障したボードに取り付けたままにします。
 - メモリモジュール : 174 ページの「プロセッサヒートシンクの取り外し」の項を参照

 再組み立てのときのために、メモリモジュールの取り付け位置を必ずメモしておいてください。
 - メザニンカード : 134 ページの「プロセッサヒートシンクの取り外し」の項を参照

 再組み立てのときのために、コントローラの取り付け位置とケーブル接続を必ずメモしておいてください。
 - UFM : 222 ページ の「UFM の交換」の項を参照

正:

- ▶ 関連する項に示すように、以下のコンポーネントをシステムボードから取り外します。
 - ヒートシンク: 207 ページの「プロセッサヒートシンクの取り外し」の項を参照

 この時点では、プロセッサを故障したボードに取り付けたままにします。
 - メモリモジュール : 174 ページの「プロセッサヒートシンクの取り外し」の項を参照

 再組み立てのときのために、メモリモジュールの取り付け位置を必ずメモしておいてください。
 - メザニンカード : 134 ページの「プロセッサヒートシンクの取り外し」の項を参照

 再組み立てのときのために、コントローラの取り付け位置とケーブル接続を必ずメモしておいてください。
 - UFM : 222 ページの「UFM の交換」の項を参照
 - microSD カード: 本書の「microSD カードの取り付け」の項を参照

訂正 「11.1 サーバブレードの交換」(関連ページ : 257)

下線部が訂正箇所です。

誤:

- ▶ UFM が取り付けられている場合は故障したサーバブレードから取り外し、新しいサーバブレードに取り付けます (222 ページの「UFM の交換」の項を参照) 。
- ▶ TPM が取り付けられている場合は故障したサーバブレードから取り外し、新しいサーバブレードに取り付けます (238 ページの「TPM の交換」の項を参照) 。
- ▶ オンボード SAS 有効化キーが取り付けられている場合は、故障したサーバブレードから取り外し、新しいサーバブレードに取り付けます (241 ページの「オンボード SAS 有効化キー」の項を参照) 。

- ▶ メザニンカード取り付けプレート新しいサーバブレードに取り付けます（128 ページの「メザニンカードの取り付け」の項を参照）。

正:

- ▶ UFM が取り付けられている場合は故障したサーバブレードから取り外し、新しいサーバブレードに取り付けます（222 ページの「UFM の交換」の項を参照）。
- ▶ TPM が取り付けられている場合は故障したサーバブレードから取り外し、新しいサーバブレードに取り付けます（238 ページの「TPM の交換」の項を参照）。
- ▶ オンボード SAS 有効化キーが取り付けられている場合は、故障したサーバブレードから取り外し、新しいサーバブレードに取り付けます（241 ページの「オンボード SAS 有効化キー」の項を参照）。
- ▶ microSD カードが取り付けられている場合は、故障したサーバブレードから取り外し、新しいサーバブレードに取り付けます（本書の「microSD カードの交換」の項を参照）。
- ▶ メザニンカード取り付けプレート新しいサーバブレードに取り付けます（128 ページの「メザニンカードの取り付け」の項を参照）。

訂正 「12.1.2 サーバブレードの内部」（関連ページ：260）

以下の記述に読み替えてください。

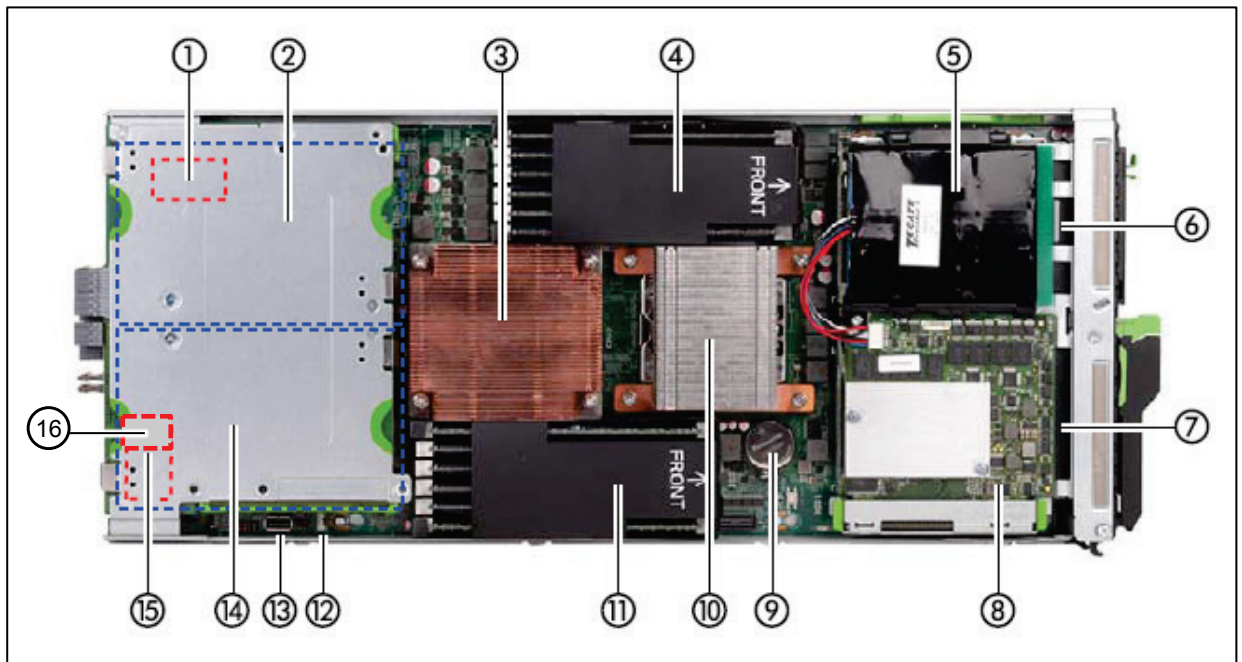


図 109: PRIMERGY BX920 S4 内部

位置	コンポーネント
1	UFM（オプション、システムボード上、図ではメザニンカード 1 の下）
2	メザニンカード 1 スロット（サポートプレートの下）
3	CPU 1 / ヒートシンク
4	CPU 2 のメモリモジュール
5	FBU
6	HDD 0 用の取り付けベイ
7	HDD 1 用の取り付けベイ
8	SAS RAID HDD モジュール
9	CMOS バッテリー
10	CPU 2 / ヒートシンク
11	CPU 1 のメモリモジュール
12	オンボード SAS 有効化キーコネクタ
13	オンボード USB コネクタ
14	メザニンカード 2 スロット
15	TPM（オプション、システムボード上、図ではメザニンカード 2 の下）
16	microSD カード（オプション、システムボード上、図ではメザニンカード 2 の下）

訂正

「12.3.2.2 フロントパネルの表示ランプ」（関連ページ：269）

電源表示ランプの説明について、以下の記述に読み替えてください。

表示ランプ		ステータス	説明
7	電源表示ランプ	オフ	電源が供給されていない
		緑色の点滅	サーバの電源が投入されていてスタンバイモードになっている
		緑色の点灯	サーバの電源が投入されている
		オレンジ色の点灯	サーバの電源は切れているが、電源は供給されている
		黄色の点灯	パワーオンディレイ  シャットダウン直後に、再びサーバの電源を入れることはできません。サーバのシャットダウン直後に電源ボタンを押すと、ディレイ期間が終了するまで電源表示ランプが黄色に点灯し、その後サーバは起動します。サーバに供給される電源が不足している場合はサーバの電源を入れることはできません。この状態で電源ボタンを押すと黄色に点灯します。
		ファームウェア 7.3x 版以降の場合は、1 つの新しい動作状況（iRMC 起動中）が表示されます。	
		黄色とオレンジ色の交互点灯	iRMC 起動中  サーバに電源が供給されると、iRMC が起動します。iRMC ブートシーケンスが完了するまで、システムの電源を入れることはできません。この間、電源表示ランプは黄色とオレンジ色を交互にします。

3. 『PRIMERGY BX920 S4 用 D3142 BIOS セットアップユーティリティ リファレンスマニュアル 2013 年 11 月版』への訂正事項

追加 「4 Advanced Menu」(関連ページ : 40)

以下の記述が追加になります。

4.14 iSCSI Configuration

LAN/CNA コントローラ用の UEFI ドライバ (オンボード CNA または PCIe カード) がロードされる場合は、iSCSI 経由でのブート用のパラメータをここで設定できます。メニューは、UEFI ドライバ専用です。メニューは、レガシー OpROM には適用されません。

LAN コントローラの UEFI ドライバがロードされていない、またはシステムに LAN コントローラが存在しない場合は、このメニューは使用されません。

4.15 UEFI Device Driver Setup

UEFI デバイスドライバは UEFI FW セットアップへのインタフェースをサポート可能性があります。情報およびコントロールアイテムのリストを提供します。利用できる UEFI デバイスドライバは例えば、EMULEX® NIC です。

4.16 Driver Health

PCI Express の UEFI ドライバが Driver Health Protocol をサポートしている場合は、UEFI ファームウェアは、UEFI ファームウェアが管理しているデバイスのヘルスステータスを UEFI ドライバに問い合わせることができます。

このメニューに、Driver Health をサポートしている UEFI ドライバのヘルスステータスが表示されます。

追加 「5 Security メニュー」(関連ページ : 44)

以下の記述が追加になります。

5.1 Secure Boot Configuration

「Secure Boot」を設定するサブメニューが開きます。

「Secure Boot Configuration」では、ファームウェア実行認証プロセスを定義します。

業界標準として、「Secure Boot」では、プラットフォームファームウェアで証明書を管理する方法、認証ファームウェア、さらにオペレーティングシステムとこのプロセスのインタフェース方法を定義します。

「Secure Boot Configuration」では、公開鍵基盤 (PKI) プロセスに基づいて、モジュールが実行を許可される前にモジュールを認証します。

Platform Mode

システムがユーザーモードかセットアップモードかを表示します。

User

ユーザーモードの場合は「Platform Key (PK)」がインストールされます。「Secure Boot」は「Secure Boot Control」メニューオプションで有効/ 無効にできます。

Setup

セットアップモードの場合は「Platform Key (PK)」がインストールされます。「Secure Boot」は無効で、「Secure Boot Control」メニューオプションで有効にできません。

Secure Boot

「Secure Boot」機能がアクティブかどうかを示します。

Not active

「Secure Boot」が非アクティブです。

Active

「Secure Boot」がアクティブです。

Secure Boot control

署名されていないブートローダ/UEFI OpROM のブートを許可するかどうかを指定します。



関連する署名を BIOS に保存するか、「Key Management」サブメニューでリロードできます。

Disabled

すべてのブートローダ/OpROM (Legacy/UEFI) を実行できます。

Enabled

署名されたブートローダ/UEFI OpROM のブートのみ許可します。

Secure Boot Mode

「Key Management」サブメニューを使用可能にするかどうかを指定します。

Standard

「Key Management」サブメニューを使用できません。

Custom

「Key Management」サブメニューを使用できます。

5.1.1 Key Management

「Secure Boot」に必要な鍵と署名のデータベースを削除、変更、追加するサブメニュー。



プラットフォーム鍵 (PK) がインストールされていない場合は、システムはセットアップモードです (「Secure Boot」は無効です)。PK をインストールすると、システムは即座にユーザーモードに切り替わります (「Secure Boot」を有効にできます)。

Factory Default Key Provisioning

システムがセットアップモード (プラットフォーム鍵がインストールされていない) 場合、デフォルトの Secure Boot 鍵と署名データベースをインストールできます。

Disabled

使用可能な Secure Boot 鍵と署名データベースは変更されません。

Enabled

PK、KEK、DB、DBX 署名データベースが使用できない場合は、システムを再起動するとデフォルトの Secure Boot 鍵と署名データベースがインストールされます。

Enroll All Factory Default Keys



このメニュー項目は、「Factory Default Key Provisioning」が「Enabled」に設定されている場合のみ表示されます。

システムをセットアップモードにします (「Secure Boot」は無効です)。システム内のすべての鍵と署名データベース (PK、KEK、DB、DBX) が削除されます。

Save Secure Boot Keys

Secure Boot 鍵と鍵データベースを選択したドライブに保存します。

Platform Key

Platform Key (PK)

「Platform Key (PK)」の現在のステータスを表示します。

Installed

PK がインストールされています。システムがユーザーモードです。

Not Installed

PK がインストールされていません。システムがセットアップモードです。

Set new PK

「Platform Key (PK)」を設定します。ドライブを選択してから、対応するファイルをブラウザで選択してください。

Delete PK

「Platform Key (PK)」を削除し、システムをセットアップモードにして Secure Boot を無効にします。

Key Exchange

Key Exchange Key Database (KEK)

「Key Exchange Key Database (KEK)」の現在のステータスを表示します。

Installed

KEK Database がインストールされています。

Not Installed

KEK Database がインストールされていません。

Set new KEK

「Key Exchange Key Database (KEK)」を設定します。ドライブを選択してから、対応するファイルをブラウザで選択してください。

Delete KEK

「Key Exchange Key Database (KEK)」を削除します。

Append KEK

「Key Exchange Key Database (KEK)」にエントリを追加します。ドライブを選択してから、対応するファイルをブラウザで選択してください。

Authorized Signatures

Authorized Signature Database (DB)

「Authorized Signature Database (DB)」の現在のステータスを表示します。

Installed

DB がインストールされています。

Not Installed

DB がインストールされていません。

Set new DB

「Authorized Signature Database (DB)」を設定します。ドライブを選択してから、対応するファイルをブラウザで選択してください。

Delete DB

「Authorized Signature Database (DB)」を削除します。

Append DB

「Authorized Signature Database (DB)」にエントリを追加します。ドライブを選択してから、対応するファイルをブラウザで選択してください。

Forbidden Signatures

Forbidden Signature Database (DBX)

「Forbidden Signature Database (DBX)」の現在のステータスを表示します。

Installed

DBX がインストールされています。

Not Installed

DBX がインストールされていません。

Set new DB

「*Forbidden Signature Database (DBX)*」を設定します。ドライブを選択してから、対応するファイルをブラウザで選択してください。

Delete DB

「*Forbidden Signature Database (DBX)*」を削除します。

Append DB

「*Forbidden Signature Database (DBX)*」にエントリを追加します。ドライブを選択してから、対応するファイルをブラウザで選択してください。

以上

Copyright 2014-2015 FUJITSU LIMITED